

大学図書館問題研究会 京都

京都市左京区吉田本町 京都大学教育学部図書室 (竹村心気付)

TEL 075-751-2111 (内3013)

オクラホマ大学図書館の実状について

— 海外研修中の立命館大学A子さんのたよりから —

皆様お元気ですか。この手紙が着く頃には桜も散って緑が鮮やかになってきていることと思います。

Kさんからの定期便で、図書館が大きく変化しつつある様子がうかがわれ、遠くアメリカから皆様の御尽力に感謝したい思います。

ここ Oklahoma に来て以来あつという間に3週間が過ぎようとしています。実質的には2週間(土・日は休み)図書館を中心に各 Department を回りながら Meeting に出席したり、Library Science School (Master Course) の lecture を受たり他の図書館を訪問したり、と非常に忙しい毎日を送っています。

図書館の概略は、蔵書220万冊、Main Library の他に6つの Branch Library を持ち非常に有名な三大 Collection があります。まず立命との大きな違いは、70%が Main Library に集中し全て開架されていることです。Research Library (or Academic Library) としては非常に高い水準を保っています。州立大学ですが財政事情の厳しさはいつでも同じで重複本は全てチェックされ、財政をいかに効果的に運用するかに大きな注意が払われています。

図書館行政については、Main Library だけでも70人近くの Staff がいますが、20人は Library Faculty と呼ばれる Specialist (Library Science の Master あるいは Dr. 取得) 図書の収集、reference や management にも関わっています。普通の Library technician と言われる人たちも何らかの Master を持っている上に、何人かは働きながら、ここの School of Library Science に通って Library Science の Master 取得をめざしています。より専門的な Skill を高めるためにこのような System が保証されているのですから、うらやましいといおうか、ひとえに日本との違いを感じます。一方、よりよい Post をめざして人の移動があるのも否めません。

今まで、収集 — 受入 $\left\{ \begin{array}{l} \text{雑誌} \\ \text{単行本} \\ \text{Catalog Dept.} \end{array} \right.$

を見た限りでは、全ての仕事が Systematic で各所の function が緻密に Manual 化されて驚くばかりです。よくもこれだけ複雑な流れをスムーズに運用しているものだと感心してしまいます。ただし縦割りのため他の仕事はわからないし、知る必要もないようです。

ここでは1976年より OCLCが導入され、1981年より RLIN に参加、今は、併用ですが、Stanford 大学に拠点を置く RLINにより重点が置かれています。すでに MT 化されている70万のデータ（内45万は遡及変換）をメンテナンスしつつ、年25,000データが追加されています。蔵書構成は英語の比率が非常に高いため80%は RLIN or OCLCにヒットし他は Original input（全て RLINへ）で training を積んだ2-3人の Librarian がこれにたずさわっています。

今だに Card Cataloging は維持されていますが、今年の秋には、トータルシステムが導入される予定ですのでそれが軌道に乗った末には Cardless にしたいとのこと。その Card Catalog は、Author, Title の上に全ての Subject Heading が打ち出され（RLIN or OCLCより）編者はもちろん多いものは10枚近くあり、毎日2-3人の Staff が一時間 filing すること?! Authority File も LCにのっとなって up-to-date に維持され、緻密かつ正確です。

以上思いつくまま、この2週間で見聞したことをまとめましたが、「立命は10年遅れてはいますが、Catalog の水準は高い」ということは言えます。そして不思議なことは、これほど正確性と組織性を追求しながら、時間に関しては全く日本と異なることです。勤務時間は8:00-5:00ですが、8:00に一斉にそろふことはまれで、office はがらんとしています。それに午前と午後 coffee break があり、10:00と3:00前後には個々に coffee を飲み、時には、キャンパス内の cafe で30分近く過すのです。Lunch も12:00-1:00前後で鐘が鳴るわけでもなく、三々五々でやって1:00 or 1:30に戻ってくるという日本ではとても信じられないことです。ノルマはあるのですが、これだけの人数ですから滞架はそれほどなく、1ヶ月~2ヶ月、遅い本でも3ヶ月以内ということ。以上、雑感も含めて、書いてみましたが、残り2週間で、Public Service と Management を回る予定です。

ドキドキするような発見が

— 大学図書館職員論ゼミからの報告 —

大学図書館職員論ゼミは4月2日に第1回のゼミナールを持ち、「職員論ゼミ」の演習課題と運営方法および日程を協議しました。演習課題については

(1) 大学図書館員養成論
(2) 大学図書館職員制度論
(3) 大学図書館員研修論 の三領域とすることとし、メンバーの共通の関心は「研修論」の領域であることが討論を通して確認しました。運営方法については専任「教員」を置かず、テーマによって「教員」を招聘するゼミ運営をおこない、その場合は「公開ゼミ」とすることを決めました。日程は毎月1回、土曜日、14時~16時30分、一応9月まで

に研究報告をまとめることなどを話し合いました。

第2回は、4月16日開かれました。発表者は竹村 心。テーマは「図書館・情報学教育における大学図書館員養成の存り方および現状と課題~慶応大学と図書館情報大学のカリキュラム分析を中心として-」。その内容は

- I 図書館学教育の歴史
 - II 大学図書館員の養成
 - III 図書館学教育における大学図書館員養成の現状と課題
 - IV 司書課程又は司書講習における大学図書館員養成の現状と課題
- むすび ということ構成で、

序からⅢまで発表しました。Ⅲ～むすびまで
は次回5月14日の予定です。討論の中では
図書館学から図書館・情報学への発展過程と
図書館・情報学と図書館情報学の比較検討が
なされました。

なお、当ゼミでは、文学部出身者又は現在

文学部を有する大学図書館に勤務する方を募
集しています。参加希望の方は下記へ御連絡
下さい。

連絡先 京都大学教育学部図書室
竹村 心
TEL 751-2111 (3013)

図書館員のための情報検索講義 第1回

第0章 はじめに

図書館にはたくさんの文献資料が所蔵され
ている。しかし、そのたくさんの資料を行き
あたりばったりやみくもにみていても、
求める情報にはなかなか行き着かない。もし、
行き着いたとしても、それは偶然というもの
である。

図書館には、抄録誌や索引誌あるいは目次
誌がたくさんある。私の勤務する図書室にも、
Chemical Abstracts, 科学技術文献速報ライ
フサイエンス編, Current Contents/ Life
Sciences 等を購入している。抄録誌や索引
誌は、それらの索引⁽¹⁾によって、著者名や主題
から、求める情報をもつ資料に、膨大な量の
資料群の中を、行きつかせてくれる。

私たち図書館員は、日々、抄録誌や索引誌
を受け入れながら、それらはいったいどのよ
うに使うものなのかを知らない場合が多い。
そのため、利用者がカウンターに抄録誌や索
引誌の利用法を尋ねてきても、即答できず、
慌てて参考書をひきながら利用法を説明する
場合がある。きっちりした研修の機会があれ
ばよいのだが、なかなかチャンスもない。

しかし、オンライン文献検索の発展の中、
抄録誌や索引誌をオンライン検索していくこ
とが増えた今日、これに対応するには、抄録
誌や索引誌の索引の特性⁽²⁾といったことを知る
ことが、より必要になってくる。

本講義では、情報検索とは、情報を蓄積し
それを検索することであるという考え方に依
拠し、特に蓄積 (Strage) の過程⁽³⁾を重視して、
各抄録誌、索引誌の説明を行う。なお、私の
講義では、オンライン文献検索⁽⁴⁾を考慮に入れ

ていることを、了解されたい。また、できる
だけ身近な状況を設定していきたい。

なお、各抄録誌・索引誌ごとに、テキスト
を指定する。私の説明で不明の場合は、ぜひ
テキストの関連ページの参照を期待する。

注

(1) 検索における索引の意義については、と
りあえず、中村幸雄「索引と検索」ドクメ
ンテーション研究, vol. 35 (1985)
p 603~611を読みたい。

(2) たとえば DIALOG システムを利用してキ
ーワード検索をする場合、デスクリプタ、
アイデンティファイヤといった項目が、ど
のような構成になっているのかを知る必要
がある。そして、そのデスクリプタ、アイ
デンティファイヤが、冊子体抄録誌の索引
に対応しているわけである。たとえば、CA
Search において、デスクリプタが、General
Subject Index と Chemical Substance
Index、アイデンティファイヤが Keyword
Index に対応しているがごとし。

(3) 長沢雅男「情報検索入門」森北出版、
p 12 参照、同書は次のごとく情報検索と
いうことについて説明している。

「情報検索は情報を利用するために収集し、
これを分析して検索手段を講じて蓄積して
おき、必要に応じて蓄積されたものなから
情報を検索するという一連の過程から
なる。」

(4) ただ、私は未だ DIALOG のみしか知ら
ない。JOIS や NACSIS-IR 等利用の方
には話が不足するが、後日をまって研修に
つとめたい。

早速本論に入る。

第1章 Chemical Abstracts

テキストとして次の2つを指定する。

- Chemical Abstracts の使い方
笹本光雄著, 東京, 地人書館⁽¹⁾ 1974,
(本講義で引用参照するときは,
“笹本CA,”と略す)
- ケミカル・アブストラクツの使い方
東京, 化学情報協会 1987⁽²⁾
(本講義で引用参照するときは,
“化情協CA,”と略す)

さて, Chemical Abstracts は, 現在,
「Weekly Printed Issue (週刊印刷版) と
Volume Index (巻末索引) で基本セット」
になっている。現在, 年2巻であるので,⁽³⁾ 半
年分26週刊号で1巻となる。

まず, 週刊印刷版 (以下, “issue”と呼ぶ)
について, 押さえておきたいポイントを挙げて
いく。

第1節 Issue

今年の第1号である第108巻第1号を見
ていただきたい。

① 抄録番号

背表紙に, “Abstracts 1-6440”と
書かれている。これは, 抄録番号である。抄
録番号とは, 各抄録の「1巻(6か月)ご
の通し番号」のことである。この番号はCA
の各種索引から各抄録に行き着くときにも用
いられる。⁽⁴⁾

② CA Sections

表紙をめくり,⁽⁵⁾ 目次を見る。Abstract
Section があがっている。1から34までの
通し番号がふられたテーマ群の名前が掲げら
れている。個々の抄録は, テーマ群の中に分
類されていく。ただし, 1から34まででは
なく, 全部で80に分けられている。第108
巻第2号をみられたい。その目次には, 35
から80までのテーマ群が掲げられている。
だから, 1から34までのテーマ群について
は, 隔週ごとに奇数号に, 35から80まで
は, 同じように偶数号に掲載される。

続きは次号に

⁽⁶⁾

注

(1) 本書の特徴は, General Subject の索引
語と, 化学物質の索引語についての詳細な
説明である。

CAの歴史からはじめてCASの機械化
まで漏らさず説明してある。

ただ, 本書の体系的な著述は, とっさに
CAの使い方を利用者に説明するのには不
向きである。

また, CASの機械化の進展, オンライン
検索の利用増大といった今日の状況に対
しては, ギャップがある。

最近の状況までチェックするために, 同
じ著者の手になる「オンライン・サーチャ
ーのためのChemical Abstractsの情報検
索」, 地人書館, 1987を紹介する。

(2) 本書は, CASが作成したCAの利用者
のためのワークブックである, CAS Printed
Access Tools a User Guide 1984
Ed. の翻訳である。

演習問題を20題設定して, 具体的にC
Aの諸々の索引を抜き出して説明している。
問題別思考型の本である。突然の質問にも
即答できるのはこの本のおかげである。た
だ, 各索引につき, どの問題をみればよい
かは, 本文をひとわり目をとおしておか
ないといけない。

また, 前掲の笹本CAのような詳細な説
明には欠ける。

よって, 両者の併用が必要になる。

(3) 化情協CA, p 9

(4) 笹本CA, p 26

(5) 化情協CA, p 9, p 122

(6) CAには, 化学に関するドクメンテーシ
ョン, 図書館情報学関係の情報を集めたセ
クションもある。「20, History
Education, and Documentation」。2週
間に一度, 世界の化学ドクメンテーション
についての現況調査をなさってはどうか。

なお, 例えば, 薬学図書館 v. 30 (1985)
p 253 参照

(京都大学薬学部 菅 修一)